

ネコヤナギ最近見ないのだ号

ブル通信

2103

実話、職人的意思疎通首振り運動の

居酒屋Aに集う人々のお話

今回の本通信、実は以前から記事にしたいと思っていたのであるがなかなか構想がまとまらず（ま、構想などという大げさなものではないのであるが）記事にしなかったわけだが、今回、他に書くこともないのでええい書いてしまえ！と思いつきでまとめた不思議なマスターとそこに集う俤体の知らない客たちの実話である。（もちろん本記事が何かの役に立つことは全くない）

タイトルではわかりやすく居酒屋Aとなっているが、正確には「かしわ屋」である。関東で言うところの鶏料理屋、だいたい名古屋あたりを境に西では鶏肉はかしわ、東では鶏と呼ぶようである。ご存じないかもしれないが名古屋より西ではケンタッキーフライドチキンもケンタの看板にかしわ屋という文字が入っているという話はもちろんウソである。

さてこのかしわ屋であるが、料理店というにはちよっと抵抗がある。私がたま～に行くようになって10年くらいか？多い年で年4～5回、3年ほど全く行かなかった時もあるが、うまいのは確かにはうまい。ただどんなメニューがあるのかわからないので常連と思える人が頼むのを見て、覚えるしかないのである。

編集発行人 ブル
ブル通信は発行人がブルドッグの様な顔をしているのでブル通信としました。

ブル通信は過去に...

ガッツのお車の
ご購入 売却
車検 修理
査定 見積もり

の
どれかをご利用頂いた
お客様に
お送りしています。

まず店はたぶん昭和30年代、新しくても40年代に出来た雰囲気、たぶん今の大将で2代目か3代目くらいか！料理は自分が知っているのはかしわのものも焼き、手羽焼き、煮物と言われるなんか、かしわと玉ねぎを一緒に煮たもの、キウウリの塩もみ、そして今回の記事の主要テーマである砂肝なのであった。他にもあるかもしれないが自分はそのしからず知らないし、大将に聞けるような雰囲気ではないのである。飲み物は瓶ビールと日本酒のみ、酎ハイなどは絶対ないと思う。品書きはよく見ると壁に品書きの残骸と見えるものがあるのであるが完全に炭化していて100%読むことは不可能、というかそこに残骸があるのに気がつくのに3年くらいかかった。店内はカウンターののみ、おそらくはワ～8人で満席、調理器具は基本、七輪一個、煮物があるから見えないう所にガスくわいはあるのである。社員は大将と、にーちゃん。息子がなあ？

昨年夏、コロナが下火になったころ千葉から知人のペンキ屋（以下ペンキ）が来て久々に行ったのであった。まず入ってびっくりしたのはコロナとは全く無縁の店内、ただ出入り口だけは開けっぱなしなので2密か！これはエアコンがない為だと思える。受動喫煙は100%関係なし、カウンターでタバコは吸いほーだい。

さてペンキを凄いに案内してやる。と言って入ったところ、先客2名、歳の頃、60代前半くらいの若い頃は綺麗だったと思われるハスッパな女（以下ハスッパ）とそのツレの同年代くらいのやや怪しい職業不詳の男（以下不

「詳」、ハスツパと不詳はどう見ても夫婦ではなさそうだが、どういふ関係なのか謎、とりあえずにーちゃんにビールとも焼きを頼んだがあまり対応はよくない。というかそういう対応が店の売りだと思っているような節がある。焼き物は大将が全て担当、お運びさんと会計はにーちゃんが担当と役職は分かれているようである。とりあえずビールが出てきてペンキーと乾杯も焼きは特に返事がないので注文が通っているか不明だが七輪で何か焼いているので大丈夫だと思う。最後に大将が秘伝だと思われるタレを塗ってくれても焼き、とうちゃく。ペンキー、一口食べてうわーうまい。と思わず口走る。そうなのだ。味は抜群なのであった。追加で手羽焼きとビールなど頼みながら、ペンキーのコロナ以降仕事が減した愚痴を聞く。

不思議なのは大将の髪型細川たかしも真つ青なカチカチに固まった髪型なのである。しかも整髪料は一切使っていない。黒々としているのである。などと人間観察をしていると隣のハスツパと不詳が口論を始める。耳をダンボにして聞いているとどーもハスツパが他の男の話を不詳が焼きもちを焼いているようである。ほおあの年齢でも焼きもちなどという感情があるのか？と妙に感心しながら、さてペンキーにこの店の真骨頂を見せてやることを決意。

おいペンキー、俺が今からあるものを注文するから大将の顔をよく見とけよ。と言つてにーちゃんに、砂肝をお願いします。と言つとにーちゃんは一瞬、大将を見る。そのとき、そのときである。大将の首が横にワミリ、いやちミリ動いたのである。出たあーペンキーお前今大将の首が動いたのがわかったか？と聞いたが全くわからないうらしい。ふっ、シロートだぜと納得、今日ももちろん欠品中らしい。数回でわかったのは砂肝は常連にしか出さないらしく昔、隣の人が砂肝頼んだので俺も頼んだら、もうない。と言われたが後から来た常連が頼むとスツと出てきたのである。それ以来、砂肝を頼むとにーちゃんが大将にお伺いを立てる事を発見、わしは常連じゃないから絶対に出てこないの

を知っているがあの職人的意思疎通首振り運動が見たいために断られるのを知っているいつも頼むのである。

さてそんなこんなで酔いも回ってきた頃、新たな客2名来店。シヤツにネクタイだが足元はサンダルという不思議なおっさん（以下サンダル）とツレの妙に顔が青白い男（以下アオジロ）うっ！常連の雰囲気。これはもしかすると、とペンキーによく注文見とけよと言いながらじつと両名をチエツリ、アオジロがついに砂肝、と口走る。にーちゃん、あいよー！という言葉と共に全く悪びれることなくスツと砂肝が出てきた。目を丸くするペンキー。これを見せて驚かしたいだけのためにペンキーを連れてきたアホなわしであつた。しかしながらコロナ渦を乗り切つて絶対に残つて欲しい店であるのは間違いない。読んでも絶対に何の役にも立たない手太話であつたのだ。（続く）かもしれない。

開けない夜はない。

夜明け前が一番暗い

今、世界全体に閉塞感が強く漂っています。毎日、毎日新規感染者や亡くなった方の報道が相次ぎ、ニュースを見ているだけでも気持ちが悪くなつてきます。

先日にも知人の看護師が勤務する医療機関で感染者が発生し、その対応の話を聞く機会がありましたが、本当に献身的とも言えるような対応で頭が下がります。

また都内では江戸期創業の180年近く続いた老舗料亭が今、この時期に閉店に追い込まれるなど飲食関連、宿泊関連の皆様のご苦勞、お察しするに余りあるものがあります。

私共、零細の車屋風情では協力したくともいかほどの事も出来ず、私どもも影響が如実に出ておりますが、明けない夜はありません。また夜明け前が一番暗いと申します。

読者の皆様におかれましてもご苦勞が絶えないと思いますが、今、出来ることだけに特化し、決して悲觀的にならず前だけを見てこの時代を生き抜いていきましょう。